

ステークホルダーの 皆さまへ

連結財務ハイライト

ステークホルダーの皆さまへ
社長メッセージ

第二次中期経営計画の概要

事業概況

マネジメント体制

資料編



代表取締役社長
工藤 英之

第二次中期経営計画の最終年度にあたる平成27年度
中間期の親会社株主に帰属する中間純利益は374億円と、
通期の利益目標である700億円の達成に向けて、概ね計画通
りの進捗となりました。今後とも、当初に設定した財務目標の達
成はもちろんのこと、当行グループの強みを発揮し、持続可能な独
自のビジネスモデルの構築に向け、全力で取り組んでまいります。

平成27年度中間期においては、消費税増税の影響が一巡した後も個人消費の回復ペースは鈍く、中国をはじめとする新興国などの景気減速の影響がみられましたが、企業収益は総じて好調、雇用情勢も着実に改善を示すなど、日本経済は引き続き緩やかな回復基調を維持しました。今後は、雇用・所得環境の改善が続く中で、政府などによる各種施策の効果もあって、景気の緩やかな回復が続くことが期待されますが、一方で、中国経済をはじめ、海外経済の下振れ懸念が依然として景気の下押しリスクとなっており、引き続きこれらの動向を注視すべき状況にあるといえます。

このような事業環境のもと、当行においては、第二次中期経営計画（第二次中計）の最終年度にあたる平成27年度は、特色ある事業基盤の確立、収益の増加と財務体質の一層の改善など、第二次中計に掲げる目標を踏まえ、個人向け業務、法人向け業務、それぞれの分野において業績の拡大に向けて積極的な取り組みを展開いたしました。

その結果、平成27年度中間期の親会社株主に帰属する中間純利益は374億円と前年同期比85億円の増益となり、通期の利益目標である700億円の達成に向けて、概ね計画通りの進捗となりました。

当中間期において着実な業績を上げることができたのは、ひとえにステークホルダーの皆さまの多大なるご理解とご支援の賜物であり、心より御礼を申し上げます。

今後とも当初に設定した財務目標の達成はもちろんのこと、顧客基盤のさらなる拡大や、当行グループが強みを有する特色ある事業基盤の強化に努めることで、平成28年度から始まる第三次中期経営計画において、将来に向けた持続可能な成長を確かにするための基礎を構築しなければならないと考えております。

すべてのステークホルダーのご期待に応えるべく、全社員が一丸となって業務に邁進してまいりる所存でございます。

今後とも、皆さまには、なお一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年12月

工藤英之

代表取締役社長
工藤 英之